

～野菜苗生産基地～（営農企画課）

峰相にある野菜苗生産基地では、新品種や新作型を研究しており、以下の試験項目を中心に取組みを進めています。

実証・試験項目
小菊プロジェクトにて適正品種の選定
抑制キュウリ推進により、端境期の出荷による所得増大
タマネギのチェーンポット試験
プチヴェールの粉末加工や商品開発
アブラナ科(キャベツ・ロマネスコ・白菜など)作型試験
業務用野菜の品種・品目試験



プチヴェール



ロマネスコ

◎ 出荷用野菜苗納品実績

	トレー苗	ポット苗
平成 26 年度	6,027 トレー	5,745 ポット
平成 27 年度	7,248 トレー	3,745 ポット
平成 28 年度	8,435 トレー	3,869 ポット

上記の施策による事業効果（利用生産者、販売額、資材供給額等）は、苗生産実績のデータ化と販売実績により検証・評価を行います。試験の結果により、他品目との比較等でコスト面や収益面で検証し、次年度以降の推奨品種、栽培体系に活用します。

～物流ネットワークの構築～（販売促進課）

農産物直売所は生産者の持ち込んだ農産物を販売することを前提としていますので、運搬の足が無かったり、店舗から離れている生産者にとっては販売しなくても困難なケースがあります。そこで、当組合では農産物を管内全域へ流通させるための物流ネットワークを構築することにより、中山間地域の農産物を都市部の店舗に流通させる等して、各店舗の品揃え充実と生産者の農業所得向上を図っています。今後も生産者の出荷状況やニーズに合わせて、便宜ルートの見直しを行います。



旬彩蔵イベント



④-⑦ 適正施肥、収量、品質の安定化と施肥コスト低減提案

営農販売部・経済部

～土壌分析の実施～（営農企画課）

峰相野菜苗生産基地内に平成 26 年度に土壌分析室を設置して、旬彩蔵出荷会員を中心に土壌分析を実施しています。この分析結果に基づいて、作物に応じた適正施肥を提案し、品質向上とコスト抑制を図っています。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
計画	1,000 件	1,000 件	1,000 件	1,000 件
実績	1,062 件	1,136 件	1,006 件	件

※今後、営農指導水準の向上を図るため、土壌分析結果の集約により地域別土質分布図の作成に取り組めます。

※土壌分析の進捗状況は、日々営農生活センターより報告を受け集計しています。分析結果は営農生活センターから生産者に伝え、営農指導を実施し、営農企画課は報告を受けています。

～肥料農薬価格の抑制～（購買課）

肥料・農薬予約購買による水稻肥料農薬早期引取奨励、水稻・麦・大豆・園芸・土づくり資材の肥料農薬大口奨励、地域農業を支える多様な担い手となる集落営農組合・担い手対策奨励の実施による実需者の利用向上および円滑な商品の提供による商品価格の抑制を図っています。

コスト低減資材である水稻被覆肥料（高窒素一発省力型）の取扱いに加えて、平成 29 年度からは、水稻農薬大型規格対応（5ha）等、新たな品目の取扱いを開始しています。今後も、全国農業協同組合連合会兵庫県本部と連携し、共同購入による銘柄集約を行うとともに、ジェネリック農薬などの省力・低価格資材の提供に向けて取り組めます。